

事業所における自己評価結果 対象人数：25人 回答数：25人(100%)

| 事業所名 | | 聖隷こども発達支援センター和合 (聖隷こども発達支援センターかみあ和合) | | 公表日 | | 2026年3月30日 | |
|-----------------|---|---|----|-----|---|---|--|
| | | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点 | |
| 環境・ 体制 整備 | 1 | 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。 | 18 | 7 | <ul style="list-style-type: none"> 基本適切なスペースが確保されている。 曜日によって人数は変わるが、自由遊びの際には落ち着いて遊びに集中ができるように衝立を使って空間を区切っている。 特にスペースが狭いと感じたことはなく、いろいろな部屋があり活動しやすい。 国で定められた一人当たりのスペースとしては十分なスペースがあると思う。専門的支援、個別支援を行う場所の確保はその都度工夫している。 こども・大人の人数を部屋の広さを見て調整できている。 十分なスペースがある。 利用定員に対しては必要なスペースが確保されている。 | <ul style="list-style-type: none"> 見学者対応や面談が重なりと部屋が予約できないことがある。 定員に対するスペースは適正だが、安全性においてもう少しスペースに余裕があるとよい。 概ね良いと思うが、日によって重心・医療のケアが必要なこども達が活動するスペースが狭いと感じる。 部屋によっては空間を区切ることが有効。 | |
| | 2 | 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。 | 19 | 6 | <ul style="list-style-type: none"> 適切。 担任同士で連携して支援をしている。 クラスの配置数は適切だと感じる。足りないクラスに入ることができていて良い。 今年度は特に各クラス手厚く職員配置がされている。 職員のお休みにも対応できる配置になっている。 看護師の休み希望を自分たちで事前に調整し不足にならないようにしている 利用定員に対しては必要な職員配置になっている。 個別対応がたくさん必要なクラスに大人が増えたのと、フリーの職員が入れる体制が良い。 | <ul style="list-style-type: none"> 医療的ケア児が多い日には看護師の配置を工夫する必要がある。 余裕がない日もあるので、もう少し人数がいるとありがたい。 活動中は良いかもしれないが給食時には人手が足りないときがある。 配置数は適切だと思うが、個別対応が必要な時には足りないと感じる。 緊急の場合に手の空いている職員が少ないと思える場合もある。 体制としての人員は足りているが、職員間の役割分担や協力体制は工夫が必要。 | |
| | 3 | 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。 | 21 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> トイレ、手洗い場、教室の動線が複雑でなく、子どもにもわかりやすい空間である。 玄関の段差もなく、エレベーターもあり、車椅子も入りやすい。 バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切である。 クラスの間に倉庫があることで、子どもたちにとってはおもちゃをどこに片付けるかなど分かりやすくなっている。 必要な場所にはセラピーなどを敷いて工夫している。 情報量が多すぎなくてよい。 色やマークで分かりやすくなっている。 使いやすいように広いトイレが設備されている。 子どもに合わせて絵カードや写真カードなどの視覚支援を用いたり、衝立やマット、かご等を使ってエリアを分けたりすることで子どもにとってわかりやすくなるよう工夫している。 設備に関しては特性を活かしている。 段差が少なくて良い。 発達段階ごとのクラスになっているため、適切な支援を提供しやすくなっている。 バギー・車椅子利用者にも入室しやすくなっている。 場面ごとに構造化されている。 バリアフリーになっていたりエレベーターがあったりと環境の配慮はされている。 視覚情報の提示はある。 | <ul style="list-style-type: none"> 余計なものを出さない対応だが、おもちゃなど足りない時もある。 午睡後のトイレが混み合う。 音に関して配慮できるとよい。 | |
| | 4 | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。 | 18 | 7 | <ul style="list-style-type: none"> カビ対策にも取り組んでおり、清潔で心地よい環境を心がけている。 掃除を徹底し清潔である。 毎日の清掃、カビ対策、清掃を徹底している。 生活空間として清潔は保たれている。 施設内の清掃やおもちゃの消毒等、日々行っている。 十分な施設だと思う。 職員が衛生環境に気を配れている 清潔な空間である。 清潔に過ごすことができるよう、掃除をしたり、消毒をしたりしている。 様々な部屋があり、活動に合わせた空間を用意することができている。 消毒をきちんと行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 棚の上など定期的に掃除をきちんとする必要がある。 おもちゃ倉庫も置いておく必要のあるおもちゃの整理と、置き場所などの共有が必要。 比較的キレイだとは思いますが、子ども達の足の裏にほこり、汚れがつきやすい。 夏季の湿気対策。 | |
| | 5 | 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。 | 21 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> スヌーズレンなど落ち着ける部屋が用意されている。 スヌーズレンなど個別の場所などが認められる環境になっている。 クラス以外にも過ごす場所が複数あるところが良い。 “必要に応じて”の使用はできている。 落ち着かない利用者があるときにはスヌーズレンの利用ができる。 部屋の予約表があるためわかりやすい。 | <ul style="list-style-type: none"> 予約表で予約しているにも関わらず、部屋が使えない時がある。 個別に対応できる部屋はあるが、少ない。 | |
| 業務 改善 | 6 | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。 | 15 | 10 | <ul style="list-style-type: none"> 会議などでPDCAサイクルについて学ぶ機会があり、行う環境も作られている。 面談などを通して目標設定と振り返りができている。 ワークシートでの自己評価振り返り、各業務の報告会議が行われている。 振り返りを行うことで業務改善に繋がっている。 期間を決めて振り返りが行われている。 振り返りシートを取り入れると良い。 TO DO リストを作ったりリーダーと振り返りを行っている。 会議などで意見を言える機会はある。 定期的に確認している。 ほぼ全ての職員が参加できている。 目標参画では上司と面談を行なっている。 毎年業務改善に向けて職員からの意見を吸い上げ、改善策を講じている 業務分掌の各担当者が主体的に年間の取り組みを計画し進捗管理しながら進めている。 | <ul style="list-style-type: none"> 超過勤務削減のため、業務の簡略化が必要。 業務改善は、もっと幅広くタイムリーに意見を吸い上げる工夫があってもよい。 目標設定と振り返りは行うことができているが、振り返りに基づいた次の行動を実際に行うかは個人差があると思う。 | |
| | 7 | 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | 22 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> 苦情受付窓口がある。 保護者の方の意向などを把握し実行できている。 保護者の意向等はキラキラやその都度受けており、改善に繋がるよう話し合っている。 意見箱なども利用している。 回答に対し分析し、改善している。 職員間で保護者からの評価について確認をする機会を作っている。 毎年、この時期に保護者評価をいただいている。いただいた声をもとに、振り返りと改善点について職員全体で話し合い、次年度の事業計画にも反映している。 保護者の意見は公表されて対応に活かしていけるように活用できている。 意向を把握するよう促しがある。 職員全員に周知をし、業務改善を行なっている。 保護者からの意見は、日々の生活の中に取り入れるように心がけている。 定期的に確認して振り返る機会がある。 保護者の意向は取り入れている。 | <ul style="list-style-type: none"> 率直な保護者の意見が、あまり出てきていないと感じる。 | |
| | 8 | 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | 19 | 6 | <ul style="list-style-type: none"> 会議、情報共有が行われている。 会議などで職員の意見を聞いている。 面談などを通して業務改善に繋がっている。 毎年、職員の意見を事業計画の会議に反映させている。 具体的な改善策等も職員間で検討している。 面談などを通して話ができている。 勉強会の中で振り返り、改善するためのグループワークを行なった。 何かを決める時や、意見が必要な時は事前にクラス職員に意見を聞くようにしている。 要望は出しやすい雰囲気になっている。 自己申告書をもとにセンター長の面接、目標参画面接の時に意見を述べている。 会議の中でも思ったことは意見として発言している。 | <ul style="list-style-type: none"> 職員の人数も多いため、年単位の業務改善はあるが、スピーディには動けない。 かじこまった場を設けるよりも匿名だったり、ラフな環境の方が意見を言いやすい職員も多い。 業務の簡略化は職場課題だと思っているため、今後も検討する必要がある。 | |

| | | | | | |
|----|---|----|---|--|---|
| 9 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。 | 16 | 9 | <ul style="list-style-type: none"> 法人内同サービス事業所間で適切な運営がなされているか相互チェックを行っている。 サービス担当者会議などを通して評価結果や業務改善につなげている。 外部からの指摘に備えた改善が行われている。 設問の通りできている。 自己評価の結果について、第三者の方々に意見をいただく機会を持ち反映させている。 同事業団の他施設からのチェックを受ける機会は、定期的に行なっている。 今後、第三者による評価も受審予定ときいている。 結果を職員に周知している。 第三者評価は受けていない。 | <ul style="list-style-type: none"> 外部評価は受けているが、それによって業務が増えているような気がする。 事務処理や仕組み作りなど、業務量削減につながる形で評価してもらいたい。 |
| 10 | 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。 | 25 | | <ul style="list-style-type: none"> 新人は特に多くの研修が用意されている。 研修などで機会が確保されている。 施設ごとで研修、外部研修もある。 研修の時間を設けて多くの人が参加できるようにしている。 研修内容が都度あった。専門的なことが多い。 多種多様な研修を行っている。 外部研修や、かみあいで研修が実施されている。 今年度は毎月半日研修の日を設け、計画的に職員研修を行っている。 スキルアップにつなげていくためには、座学だけでなく実践と振り返りを含めた研修がより深い学びになると感じる。 発達支援の専門家によるSVも職員にとっての刺激となっている。 研修のお知らせを掲示して自己啓発としても学べるチャンスももらえる。 午後を研修としてだけの日がありよい。 月一で組み込まれている。 職員全員が研修に参加している。 職員の資質を向上するために平日に半日研修の日を設けたり、土日の際は勤務として研修に参加することができている。 職員にどんな事が必要なのか考えられている。 | |
| 11 | 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。 | 24 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 適切に支援プログラムが作成されている。 会議で共有しており、改善点は思い浮かばない。 設問のとおりできている。 パンフレットやHPに掲載されている。 話し合い、作成し公表している。 支援プログラムがあることで、自分たちの支援を振り返る機会にもなる。 自施設が何を大切にしたいのかを見直す機会にもなる。 5領域に則った支援プログラム。 見やすく提示されている。 職員の意見を参考に支援プログラムを作成している。 各自話し合う時間を積極的に持つようにしている。 保護者には公表できている。 | <ul style="list-style-type: none"> 作成当初は意識していたが振り返って考える機会が少ない印象である |
| 12 | 個々のごどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。 | 23 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> 支援計画が決まった期間ごとに設けられている。 日々の子どもの様子を通して保護者の方の思いなどを分析し支援計画を作成している。 ひとりひとりの様子を見て必要な関わりができるように日々関わっている。 保護者のニーズを確認しボーテージを取り、現状に合った支援計画を作成している。 ボーテージを取り入れ、わかりやすく行われている。 アセスメントはとくに細かくできている。 専門職と半年前からどれくらい成長が見られるか、今の課題はどこか一緒に考えている。 日頃の様子をみて職員に相談しながら作成している。 多職種に意見を求め、作成している。 支援計画の評価時期に、保護者の意見を聞かせてもらっている。 ニーズ整理は、表面的な言葉の把握にばかりでまだ十分ではないものの、カンファレンスを通して職員間で理解を深め、計画につなげている。 カンファレンスで気になる行動等をクラス職員で共有、検討している。 アセスメントシートを活用しながら、実施している。 他職種の視点も取り入れながら立案している。 カンファレンスの中でアセスメントを丁寧に行なっている。 保護者のニーズや課題から目標を設定している。 | <ul style="list-style-type: none"> しっかり行われていると思うが、少し時間がかりすぎていると感じる。 時間を短縮させるようなシステムが必要。 人によって解釈に差があるため、適切なアセスメントを行うための研修などはあっても良い。 |
| 13 | 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。 | 25 | | <ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援管理責任者と職員での支援計画のカンファレンスが設けられている。 考慮した検討が行われている。 カンファレンスで共通認識、理解をすることができている。 カンファレンスでクラス担任からいろんな意見を出し合い、検討されている。 いろんな職員の意見が聞けるよう、検討する時間を計画的に考えられている。 専門職と相談して案を作成し、カンファレンスができている。 支援計画はカンファレンスを通して、様々な職種の意見を参考に作成できている。 カンファレンスで職員それぞれが考えていること、感じていることを伝えるようにしている。 職員で話し合い適切に作成されている。 多職種で関わっている。 | <ul style="list-style-type: none"> 会議で意見交換しているが、時間がかかっている。 クラス職員間での共通認識は、もっと深めていかなければと思う。 |
| 14 | 児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。 | 24 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 支援計画に沿った支援が行われている。 設問26同様、クラス職員間で検討、共有できている。 利用者や関わるときには、会議で共有した事ができるようにしている。 都度課題の話をしている。 集団、個別を組み合わせて行っている。 サマリーを分担して行いながら、計画に合わせて支援をしている。 支援内容を具体的に立てていることで共有しやすく、実践につなげやすくなっている。 こどもの様子をクラス職員で共有して支援計画の具体策を実施し反応を確認している。 話し合いの際にみんなで共有できている。 日々、毎日目標に対しての評価をしている。 クラス職員やリハ職員等に周知し計画に沿った支援を行なっている。 月に1回評価を入力することで、支援の進捗を確認できている。 サマリーを入力するため支援計画は共有されている。 | <ul style="list-style-type: none"> 日々の支援にどのように組み込むかは職員間で差がある。 |
| 15 | こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。 | 22 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> フォーマルなアセスメントに加え、日々の行動観察などのインフォーマルなアセスメントも活用している。 カンファレンスを通してアセスメントや日々の行動観察を確認が出来る。 標準化されたツールの使用や日々の観察により確認できている。 ボーテージプログラム、太田ステージ等 アセスメントツールを使用し、明確な達成基準のもとアセスメントを実施できている。 日々の行動観察をカンファレンスで話し合うことでこどもの状態を確認している。 アセスメントシートを使ったり支援の中で行動観察ができている。 | <ul style="list-style-type: none"> ツールの解釈など精度を上げる必要がある。 |
| 16 | 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。 | 25 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援管理責任者と職員でのカンファレンスによって考えられている。 支援計画を通して支援内容を踏まえ項目を設定し支援内容設定している。 必要な項目に対し、具体的な支援が設定されている。 どの項目も目標設定、評価をしている。 各項目について、適切に設定している。 カンファレンスで話し合いながら子どもに合わせた具体的な支援内容を作成している。 全ての項目について支援計画が立てられている。 保護者との対話を大切にして保護者の本音を引き出し支援に活かせるようにしている。 各クラスにおいて、それぞれに支援のねらいを設定し、それに則した活動を計画している。 | |

| | | | | | |
|----|---|----|---|---|---|
| 17 | 活動プログラムの立案をチームで行っているか。 | 24 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・チームで具体的な活動を考えている。 ・クラス会議や日々の中で活動について話している。 ・クラスで相談し、行っている。 ・パートのスタッフにも意見を求めることがあるので、考えていることを答えている。 ・月案をクラス職員、リーダーで作成している。 ・チーム内でやってみたいことや活動を考えている。 ・活動内容を決めるときには職員間で相談したりしている。 ・クラスチーム内の、打ち合わせ、カンファレンスの実施等行っている。 ・毎週クラス会議をして活動の評価をリーダーと共にやっている。 ・カンファレンスで工夫している。 ・クラスの活動プログラムには、それぞれにリーダーも参加して立案していると思う。 ・月案を作成し、日案で振り返りを行っている。職員同士意見を言いながら活動を設定している。 ・担任間で目標など共有されているように見える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・詳細まで話し合う時間が少ない。 ・チームでやっていると、新しいあそびが展開されにくいので、工夫が必要。 |
| 18 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。 | 21 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の月案で段階を踏んで発展した活動が行われている。 ・月ごと曜日ごとで固定化しないようにしている。 ・段階を踏んでやっていると担任同士で話している。 ・園訪問等で知り得たこと等も取り入れ、工夫している。 ・固定化していると感じたスタッフが声を出し、修正している。 ・生活を交代することで固定化されていない。 ・同じ遊びでも展開の方向を変えて子どもが飽きないよう気をつけている。 ・季節に沿ったプログラム、児童のブームに沿ったプログラムにしている。 ・レベルを少しずつ上げたり、課題や目標に応じて活動内容を変えている。 ・活動計画は、クラス毎年間計画に沿ってねらいをもって月ごとに計画を立てている。 ・子どもたちが楽しめる活動になっているか、遊びの内容についてはクラス会議や研修等で学んだり検討したりしている。 ・毎週クラス会議をして活動の評価をリーダーと共に月間ステップで目標達成に向かっているか確認している。 ・クラス単位で話し合いをしている。 ・多くの声を取り入れている。 ・同じ週には同じ活動をいれていない。 ・固定化しないように心掛けている。 ・日々工夫している。 ・子どもの姿に合わせて変化させている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自由遊びの玩具は適宜子どもたちの姿に合わせて内容を見直す意識をもてると、もっと充実した自由遊びになっていくと思う。 |
| 19 | こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。 | 25 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> ・集団活動では難しいところは個別で対応するなど対応がなされている。 ・個別活動と集団活動を組み合わせ支援計画を作成し活動や関わりを通して支援を行っている。 ・1つの活動に対しても、発達段階に合わせグループ分けや個別の対応をしている。 ・設問の通りできている。 ・個別、集団どちらが最適か予測して計画を作成している。 ・集中できないときは個別で対応することもある。 ・集団で行うことと個別で行うことを組み合わせ行っている。 ・子どもの状況に合わせた目標を作り、活動の中で支援を行っている。 ・必要に応じて、専門的支援を取り入れている。 ・子どもの様子をよく観察し保護者とも相談しながら個性を出せるようにしている。 ・個別の取り出し（専門的支援）をしている。 ・こどもの状況に応じて適切な支援ができています。 ・カンファレンスで話し合っている。 | |
| 20 | 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。 | 19 | 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・日案で確認は取れている。 ・時間を決めて打ち合わせを行い、一日の流れ・活動内容・支援内容・役割などを確認し、連携をとっている。 ・日々の確認をしている。 ・その日の活動をどのように行うか、職員間で共有し連携を図っている。 ・利用者が来る前の時間を使って共有している。 ・何をどう動いてほしいのか話し、動きの共有をしている。 ・毎日、必ずその時間をもち、共有することを心がけている。 ・ホワイトボードを使ってクラス職員の動きや活動の準備など自然の打ち合わせをしている。 ・朝と夕方行っている。 ・日案をもとに支援を行っている。 ・連携・共有できている。 ・チームで連携している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・打ち合わせはできているが、支援内容や役割分担を確認する視点が弱い。 ・活動内容は共有できているが、個別の配慮事項を共有する時間を多く持ちたい。 |
| 21 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。 | 17 | 8 | <ul style="list-style-type: none"> ・気づいた点の共有が行われている。 ・時間を作り、その日の振り返りを行ない反省点や改善策、共有事項を話し合っている。 ・活動や日々の中で子どもの様子を気軽に話したりして共有できている。 ・子どもたちが帰ったあと、その日あったことを振り返り、共有している。 ・まとまった時間が取れない時は、思ったことを伝えるようにしている。 ・良かった点、改善した方がいい点について話し合う時も多い。 ・うまくいかなかったことは必ず共有している。 ・気になる点を共有している。 ・支援で上手くいったことや困ったことなどを話している。 ・その日気になったことは話をする時間を作っている。 ・若い職員の話聞き問題解決できるように支援していく。 ・全体で共有している。 ・振り返りと今後の支援について話し合いができています。 ・毎日振り返りを行なっている。 ・週1でクラス会議を行い、リーダーと共に振り返っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・日によっては簡単に振り返るのみとなっていることもある。 |
| 22 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。 | 23 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・その日あったことを日案に記録しており、改善点など今後の対応をその記録から導くことができる。 ・日案では流れや子どもたちの目標、ヒヤリハの記録から支援の検証・改善に繋がっている。 ・事故やヒヤリハはもちろん、日々の変化や新たな事象について話し合いを行っている。 ・日案を毎日記入して、会議で改善に生かしている。 ・日案を記入して後日見返している。 ・次回にどうするか考えられるようにしている。 ・日案にて振り返りを記入し、支援方法についてクラス職員間で話し合っている。 ・日案に振り返りや気になったことを書込みクラス会議でリーダーと共に振り返りを行っている。 ・徹底できている。 ・業務終了後に記録を入力している。 ・話し合いをしながらか記録を残している。 ・日案に活動の記録(こどもの様子)を書くことはできている。 ・日誌を見ながら次どうしたらいいのかを考える機会は作れている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・職員間で共有し支援の検証等話し合っているが、細かなことについては限られた時間でもあり検証しきれていない。 |

| | | | | | | |
|--|--|--|----|---|--|--|
| | | 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。 | 23 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> 決められた期間のもと、支援計画の見直しが行われている。 会議や研修、振り返りを通して支援計画の見直しと必要性を判断し見直しができている。 個々の様子に合わせて作成している。 適切な見直しが行われている。 モニタリングする利用者を決めて、定期的に行っている。 目標達成のためのアプローチを複数試している。 子どもの日常生活の様子にあわせて適宜行う。 定期的に支援計画の評価を行い、新しい目標を作成したり修正している。 勉強会の実施等。 毎日評価を行い1ヶ月毎にサマリを記入して現状を把握して見直しが必要か評価している。 モニタリング表を活用している。 月に1回評価を入力することで、支援の仕方を見直している。 | ・アセスメントの精度が人によって違う。 |
| | | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。 | 25 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> 参加できる範囲でなるべくクラス担任が参加している。 状況よく理解したクラス職員が参加することができる。 担当のクラス職員が参加している。 担任も同席し、こどもの現状や課題をお話する機会が与えている。 改善が必要だと思われる点はない。 児発管やクラス担任等、子ども現状を理解した者が参加している。 基本的にはクラスの担当者や児発管の2人体制で参加している。 主任に限らず、その子どもの情報を伝えられる人が参画している。 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画している。 会議前に、きちんと情報交換をしている。 担任以外にも関わる職員が参加している。 クラスにヘルプで入るなど担任が参加しやすいように調整している。 | ・サ担の日程のお知らせが切羽詰まった状況で来ることがあり事前準備が難しいこともある。 |
| | | 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。 | 24 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 綿密に連携できている。 児の担当医師などに、電話連絡などで連携できるようにしている。 必要に応じて受診している病院と子どもの様子について情報共有などを行っている。 保育園や幼稚園を訪問し様子を共有している。 児童のようす、保護者の様子など状況に応じて、各機関と定期的に情報共有する体制を整えている。 医療系の専門職同士で特に協力している。 改善が必要だと思われる点はない。 関係機関との連携体制を整えている。 普段から連携をとることができている。 必要に応じて電話で連絡を取り合っている。 園との情報共有など連携がなされている。 他の施設と共にマニュアルを作成して連携支援ができるよう体制を整えている。 医療を含めて、地域連携が出来ていると思う。 担任や児発管との話し合いをしつつその分野に特化した人間が連携をとるようにしている。 電話等で連携をとっている。 | <ul style="list-style-type: none"> 保育との連携はされているが、教育関係者や医療機関の担当者との連携は書面になることが多く同席による会議の設定は難しい。 医療との連携ではもう少しこまめな連携をした方がよいケースもある。 |
| | | 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。 | 25 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> インクルージョンの観点から支援できている。 こども園や幼稚園などに担当職員が訪問して意見交換や情報共有をしている。 並行利用しており、連携している。 移行の際には、保護者も含めて話し合いの場を設けて今の子どもの様子や今後の課題について情報共有をしている。 機関連携を行うことで支援内容の共有ができている。 保育所等訪問支援事業や園からの情報も加味し児に必要な支援を考え行っている。 定期的に個々の発達段階や発達目標の共有のための会議の開催はされている。 保護者の意向とこどもの育ちをみながら、各関係機関と連携を図り、共通理解を図るようにしている。 情報共有と総理解ははかれているとおもう。 園訪問等で情報共有と相互理解を図っている。 並行通園のお子さんも受け入れており、通園の頻度については、支援計画の評価のタイミングで園や保護者と再検討している。また、訪問支援を利用していないお子さんについては、年1回程度は園の様子を確認するため、園訪問にて連携している。 訪問、電話で情報共有している。 並行通園を目指し支援が行われている。 保育所等訪問事業と連携し、園との情報共有や支援計画作成等がなされている。 保護者の希望などよく話を聞き園と共有できるようにしている 1人の児に対し、多職種連携ができている。 担任が連携を行ったり、実際に園に見学に行くなどもしている。 家族の意向の確認や、保育者等訪問支援などを通して情報共有している。 他施設との連携をこまめにとっている。 | |
| | | 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。 | 24 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 綿密な情報共有ができている。 支援学校の教員が訪問に来ることもあればこちらから訪問することがある。 設問の通りになっている。 就学先訪問にて「かけはしシート」を活用し直接先生に子どもの特性や関わり方について伝えている。 特別支援学校の先生が来訪する等で情報共有と相互理解を図っている。 学校側が直接来られる場合は直接見てもらえるのは良い。 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。 | |
| | | (28～30は、センターのみ回答) | | | | |
| | | 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。 | 21 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> よく意見交換などを行っている。 必要な連携はしている。 児童連絡会に参加し、意見交換をするなど連携を図っている。 定期的な会議の開催を実施している。 職場内実習があることで職員の質を高めている。 横の繋がりをしたり、他事業所での取り組みを知れる。その情報を、職員間で共有している。 改善が必要だと思われる点はない。 センターが中心となり、2か月に一度事例検討会や勉強会などを行っている。 他の障害児通所支援事業所との連携を図っている。 法人内の児発との連携がなされている。 連絡会議の開催 | ・他法人と職員同士での交流や療育に関する情報共有などをやる機会は少ない。 |

| | | | | | | |
|----|----|--|----|---|---|--|
| 連携 | 29 | 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。 | 25 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> ・正社員が、勤務として研修などに参加している。 ・外部講師からの研修をうけて、参考になった。 ・外部や内部研修で、療育の支援方法について検討したり、虐待などの研修を行っている。 ・専門家から助言を受けたり、外部研修に参加したりして専門性を高める機会はある。 ・タイムリーなスキルも含めて研修計画の立案と実施がされている。 ・同法人内の別事業所へ実習の機会をいただけた。 ・不定期であるが、専門家から助言をいただけている。 ・研修などを通して様々な事を学べている。 ・専門的助言を頂ける研修が行われている ・大学の先生を講師に、年4回の研修を行っている。それ以外にも様々な外部研修に多くの職員が参加している。 ・大学教授などの専門家による研修が行われた。 ・研修のお知らせ掲示、声掛けしている。 ・勉強会、研修等、活発に行われている。 ・病院リハ職に訪問してもらいセンターでの対応の助言を貰っている。 ・研修等の案内を提示していただける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師の選定を年度末に職員全員でできたらと思う。 |
| | 30 | (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。 | 19 | 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・参加している。 ・センター長が参加しその情報は会議で共有されている。 ・話の内容について、会議で共有されている。 ・改善が必要だと思う点はない ・担当者に会議の開催連絡をして参加できるように調整している。 ・参加している | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の子どもの交流も行える機会があるとよい。 ・現在センター長を中心に参加しているが、今後は中堅職員も積極的に地域の会議に出席していくのも地域理解が進み、刺激になると思う。 |
| | 31 | (31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。 | | | | |
| | 32 | 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。 | 23 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・隣のこども園の子どもたちと交流している。 ・隣のこども園との交流や放課後デイサービスはなえみとの交流がある。 ・隣のこども園との交流を増やしていければよい。 ・保育所訪問している。 ・敷地内のこども園や、高齢者施設利用者との交流、または施設内でも放デイの子どもたち、クラスを超えての交流なども行っている。 ・事業計画に交流できるよう行事を共有や参加の調整をしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・こども園の行事に参加させて頂けると、より他の子どもとの関わりが繋がると思う。 ・まだ特定のこども園での実施のみ。 ・機会としてはあるが少ない。もっと日常的になるとよい |
| | 33 | 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。 | 25 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報共有できている。 ・児のお迎え時に保護者の質問に答えたり、今日の出来事を共有している。 ・送迎時などで、今日の子どもの様子について伝えたり、今の課題について共有している。 ・送迎の際にこどもの話をしたり必要に応じて面談をしたりすることで状況や課題について共通理解をもつことができている。 ・送迎時だけでなく、必要に応じて、キラキラタイムを行っている。 ・個別の支援計画をもとに発達と課題の共有はされている。 ・コドモンの連絡機能を活用している。 ・保護者とお話しする機会を設けて、共通理解を図れるようにしている。 ・登園や降園の時、きらきらや保護者座談会、行事を通し子どもの発達や状況、課題について共通理解ができている。 ・連絡し情報共有している。 ・日々の送迎時等で現状の共通理解を図っている。 ・送迎時や面談時に成長と課題をお話している。 ・送迎時に一人ひとり保護者と話せるよう職員が担当して関わっている。 ・園訪問、サービス担当者会議など、活発に行われている。 ・支援計画を立て計画を共有している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・就労されている方のスケジュール調整は課題。 ・ゆっくり落ち着いた環境で話を聞く場を時々設けることは大切だと感じる。 |
| | 34 | 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。 | 18 | 7 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報提供できている。 ・土曜日に行っていて参加しやすい。 ・親子行事やグループキラキラを実施して子どもについて話し合う機会を作っている。 ・ペアプロの視点で保護者と話をしたり助言したりしている。 ・保護者のニーズをいかにくみ取るかが課題。 ・できるだけ参加しやすい環境を整えられるとよい。 ・親子通園やお父さんお母さん先生を通して行っている。 ・研修などを通して学べている。 ・参加できる研修を実施している。 ・行事や個別面談の機会を通して、情報提供を行っている。 ・外部の研修やイベントの情報等は掲示板を使ってお知らせしている。 ・家族支援に関する勉強会を定期的に行なっている。 ・親子行事など行なっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ペアトレについては、これから進めていく。 |
| | 35 | 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。 | 24 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・契約時には、運営規定や利用者負担などについて説明している。また、オムツ代が必要になったりしたときはその都度金額などの説明をしている。 ・契約時と新年度に行っている。 ・ご不明な点がないように、わかりやすく伝えている。 ・会議や研修などを通して学び説明を行っている。 ・新年度説明会を活用している。 ・面談の際、丁寧な説明を行っている。 ・自己負担がある場合にはその都度説明している。 | |
| | 36 | 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。 | 24 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・家族の思いを引き出せるような質問をしている。 ・送迎時に直接保護者に聞いたり、電話で保護者から意向を確認している。 ・保護者がなるべくリラックスした状況で、願いや意向をお話できるよう努めている ・最善の利益は考慮されていると思う。 ・どういう風になってほしいかなど聞き取りや個別キラキラをしている。 ・こどもの意向については、今後どのような形で反映するのがよいか考え続けたい。 ・その都度、子どもに必要な支援や保護者の意向を確認している。 ・毎日の送迎等での会話や別で時間をとり話すこともできている。 ・保護者の意見の尊重はもちろん、子どもの最善の利益の優先もなされている。 ・こどもの様子をよく見る事と保護者との対話を大切にする。 ・クラス担任、リーダー、児童発達、保護者、OT、PT、STなど、多職種連携で支援計画作成を進めている。 ・こどもの意向について難しい所もあるが、担任は子どもの事をよく理解し読み取っている。 ・計画書作成前に話を聞く時間を使っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの意志に関しては発達段階によってはどう汲み取るかが難しい。 |
| | 37 | 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。 | 25 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> ・家族の思いや願いと違わないかを確認している。 ・児童発達支援計画の面談を行い、保護者から同意を頂いている。 ・面談を行い、保護者と課題などを確認し合い、行っている。 ・説明の時間を作り、丁寧に説明されていると思う。 ・児童発達支援管理責任者とのカンファレンスののち、児童発達支援管理責任者による保護者への説明、同意がなされている。 ・事前にスケジュール調整をしてゆっくり話ができるようにしている。 ・平易な言葉を使用し分かりやすく説明している。 | |

| | | | | | | |
|----------|----|--|----|----|--|--|
| 保護者への説明等 | 38 | 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。 | 24 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 相談や悩みを引き出すような話し方をしている。 キラキラタイムでゆっくり話す場があり良い。 キラキラタイムや送迎時に困り事などを聞き、子どもへの関わり方を伝えている。 年間スケジュールを立て計画的に面談をしている。また、それ以外でも必要に応じて面談をしている。 計画的にキラキラタイムを実施している。 送迎時など保護者と対面する中でその都度の悩みや困り事を感じし対応している。 個別キラキラや送迎時などで話が聞きやすい場面がある。 面談や保護者の方からの聞き取りを通して、助言、保護者の思いを聞き支援を行っている。 相談は適切に行っている。 保護者の要望やニーズを把握した段階でタイムリーに共有し、動けるようにしている。 適宜面談を行なっている。必要であれば専門職にも入ってもらっている。 保護者からの悩みがある場合、面談を行うなど助言や支援を行なっている。 個別面談や療育参加など状況に応じて定期的な開催だけでなくタイムリーに行えるよう日頃から保護者の話を聞くようにしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 年間では計画は立案しているが、定期的な開催にはなっていないように感じる。 |
| | 39 | 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。 | 23 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> 研修会などのお知らせを積極的に発信している。 きょうだい児の活動も始まり、保護者同士話し合う機会もある。 グループキラキラを実施したりしている。 保護者同士の交流の場は行事などを通して設けている。 今年度からきょうだいへの施設開放をすることで交流する機会を設けている。 遊び場の提供という自然な形で、きょうだい同士の交流の提供ができた。 保護者交流の機会は定期的に設けている。 でいじーの活動 保護者座談会や行事を通して行っている。 保護者会はないが、きょうだい児支援として、施設開放日（デイジー）を設けた。 保護者同士の交流が持てる様な行事の開催。 今年度は父母に加え、きょうだい児の交流も行うことができた。 兄弟児の遊び場の提供は度々実施。 | <ul style="list-style-type: none"> 長期休みを通して、きょうだい児が交流する機会を作れるとよい。 きょうだい交流は長期休みであると保護者の負担も軽くなると思う。 機会が少ないため今後も様々な機会を提供していけるとよい。 保護者同士の座談会や行事は参加される方が固定化している。同じ年齢の子どもを持つ保護者と交流したい希望も聞かれているため、保護者のニーズに合わせて座談会のグルーピングは工夫が必要。 |
| | 40 | 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。 | 25 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> すぐに対応している。 スタッフで相談内容などを共有し、必要な場合には話し合いを持つようにしている。 職員みんな、そのように対応しよう心がけている。 コドモンや直接保護者から相談があったときには保護者に確認したり、児発管に報告をなるべく早く対応するようにしている。 上司やクラス担任に確認してから対応するようにしている。 相談があった時には、なるべく早くに対応できるようソフトを調整している。 迅速かつ適切な対応は、できている。 迅速に他職種連携がとれている。 情報をタイムリーに職員どうして共有できるようにしている。 食事の要望などスピーディーに対応している。 | |
| | 41 | 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。 | 23 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> HP・コドモンから発信できている。 コドモンで毎日活動内容について報告したり、ホームページで情報発信を行ったりしている。 ホームページやコドモンの写真販売等を活用し、子どもの様子をわかりやすく発信している。 活動概要や行事予定をその都度発信している。 今年度は防災訓練の様子などもコドモンで配信するようにしている。 保護者に周知が必要なお知らせもすべてコドモンを活用しペーパーレスにし、保護者がいつでも見れるような仕組みにしている。 防災訓練の様子を配信。 HPの充実、発達支援サイト。 ツールを使って配信している。 | <ul style="list-style-type: none"> 活動写真の配信は年に数回あるが、日々の活動についても写真を添付することで、より内容が伝わりやすくなるのではないかと。 HP更新のお知らせなど沢山の方に見ていただけるよう掲載情報をお伝えできるとよい。 |
| | 42 | 個人情報の取扱いに十分留意しているか。 | 25 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> ファイルなどを持ち出すときには鍵がかかるものを使用している。 写真がクラスに残ったままにならないようにしている。 個人情報のあるものは鍵のある場所で管理するようにしている。 取扱いに留意している。 個人情報の取り扱いについての研修を含め、扱いのチェックも日々行っている。 子どもたちが帰ったあとは名前の載っているものは片付けしている。 その都度、個人情報の取り扱いについて職員と共有し、意識を高めている。 個人情報を書きある書類やパソコンの画面など個人情報がかからないよう常に注意して取り扱いに気をつけている。 個人情報がかかるものは出しっぱなしにしない等、取扱いには注意している。 個人情報であるかどうか職員同士で配慮しお互い指摘できるように心がけている。 個人情報の持ち出しのルールの徹底など出来ている。 | |
| | 43 | 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。 | 24 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 職員同士で相談しながら視覚支援を使って意思疎通がしやすいように工夫したりしている。 子どもにとって最善のわかりやすい伝え方を検討したり、実践したりしている。 保護者に合わせて連絡の手段を変えたり、情報を伝えたりしている。 保護者への伝達を口頭だけでなく、コドモンを利用する等個々に応じて行っている。 おもちゃなどの物を介して行っている。 相手に伝わりやすいこととはどのようなことかを、常に意識して対応している。 面談や聞き取り、コドモン等を通して保護者の方に寄り添った情報伝達ができるよう心がけている。 相手に理解できるよう個別の配慮を行っている。 まずは子どもたちをよく見る事と保護者の話をよく聞くことを心がけている。 コドモンなどで子どもの様子を具体的に伝えるようにしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 外国籍の保護者へのお便りなど、翻訳したものが用意できるとよい。 |
| | 44 | 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。 | 11 | 14 | <ul style="list-style-type: none"> ポスターを貼ったり、情報提供をしている。 児童館を利用していない子どもをセンターに招待して遊んでもらう機会を作っている。 地域住民と関わる機会はない。和合せいれの里全体では実施している。 里祭りなどを通して行っている。 和合せいれの里として、地域住民の方も参加して里祭りなどが行われている。 | <ul style="list-style-type: none"> 単独事業所として地域住民を招待するような機会はない |
| | 45 | 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。 | 25 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> 防災訓練をしたり、感染症に関する勉強会を実施している。 定期的にマニュアルを改訂している訓練の様子を発信している。 研修、訓練を含めた研修を定期的に実施している。 マニュアルについて印刷して職員に周知している マニュアルは整っている。 研修、避難訓練、会議を通してマニュアルをみながら訓練をできている。 コドモンで訓練を配信しているので周知に繋がっている。 マニュアルに沿って行動している。 マニュアルの周知もコドモンや回覧等を使って行っている。 月一回色々なパターンでの避難訓練を実施している。 マニュアルに合わせた訓練を行なっている | |
| | 46 | 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。 | 24 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 定期的に行なわれている。 さまざまな災害を想定して訓練している。 研修を通して職員全員に周知できている。 定期的にBCPの確認、訓練を行っている。 非常災害の種類や避難場所の変更を行い、さまざまな避難訓練が行われている。 職員へのBCPの理解を深める研修の開催、訓練の実施を年間計画で予定している。 定期的に勉強会を行なっている。 | <ul style="list-style-type: none"> けが人が出た際の訓練も定期的にできるとよい。 |

| | | | | | | |
|---------|--|--|----|--|---|---|
| 非常時等の対応 | 47 | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。 | 25 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者と情報共有できている。 ・処置の方法などの研修をしている。 ・児発管と情報共有をしたり、書面にて確認をしている。 ・看護師とクラス職員を中心に確認している。 ・面談時や変化があった時など保護者と情報共有を行っている。 ・会議での周知は全員に伝わって良い。 ・疾患や内服把握している。 ・把握している。看護師と共有し、対応についても職員間で共有できるようにしている。 ・利用開始前に他職種で情報共有をしている。また、保護者から状況を随時聞くようにしている。 ・事前に看護師による確認がなされている。 ・クラス職員と共に看護師も情報を共有し安全に対応できるよう事前のシュミレーションをしたり職員全体に情報共有している。 ・インテーク時に確認している。 | |
| | 48 | 食物アレルギーのあることについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。 | 25 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ、栄養士、保護者が話す機会を設けるなどしている。 ・食料を確認して、提供している。 ・薬の管理をしたり、医師の指示書は保管されている。 ・アレルギーの有無の詳細な確認と医師の指示書は定期的な更新をして行っている。 ・トレーで色分けしている。 ・契約を締結するときに、丁寧に確認している。 ・食物アレルギーでの事故がないように職員や栄養士を通して対応ができています。 ・十分留意している。 ・指示書に基づく対応ができています。 ・食物アレルギーのあることについて、医師の指示書に基づく対応がされている。 | ・契約時にアレルギーの確認をしてアレルギー管理指導票を主治医に記載してもらうため準備に時間がかかる。 |
| | 49 | 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。 | 24 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・年に何回か、レクチャーと実施訓練をしている。 ・防犯訓練をしたり、防災訓練での身の守り方や安全な遊具の使い方などについて子どもに伝えている。 ・安全計画を作成することはできている。 ・訓練のパリエーションがある。 ・定期的に研修を行い、職員の意識を高めている。 ・マニュアルは定期的に見直し、改善している。 | ・女性が多い職場なので、不審者対応は講師を招聘して訓練した方が良い。 |
| | 50 | こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。 | 22 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・コドモンで発信している。 ・防災訓練があったときには送迎時やコドモンで報告を行っている。 ・契約時に話している。 ・引き渡し訓練を行なった。 ・保護者の方にもみれるように掲示板に掲示している。 ・避難訓練後は写真配信にて、周知している。 ・安全計画を作成し保護者の方に周知できている。 ・新年度説明会の時に周知すると共に必要時にはコドモンでお知らせをしている。 | ・訓練については毎月お伝えしているが、その他の安全教育に関することは発信が少ない。 |
| | 51 | ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。 | 24 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・夕礼や会議で共有している。 ・ヒヤリハットについて、話し合う場がある。 ・ヒヤリハットについて共有し、事故にならないように対応方法について検討している。 ・毎日ヒヤリハットをあげ、月に1回会議で共有されている。 ・毎月、状況を取りまとめ、注意喚起を行っている。 ・定期的な会議にて共有し対応についても期間を定めて評価している。 ・1ヶ月ごとクラス内でのヒヤリ、事故の表を書いてクラス内でヒヤリの改善点や事故報告書で職員に周知し対応、なぜ起こったかなど再発防止につなげている。 ・週一会議で把握している。事故につながっていない事が対策になっている。 ・毎日小さなヒヤリを見つけて事故の未然防止に努めている。 ・毎日のヒヤリハットの記録、それによる方策を記録、やった結果が記録されている。 ・毎日一つはヒヤリハット事例を共有して大きな事故にならないための対策をしている。 ・委員会等で検討している。 | ・ヒヤリハットやリスク管理についての認識や予想ができるよう視点を伝えていくことが欠かせない。 |
| | 52 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。 | 25 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> ・会議で話し合う機会を持つようにしている。 ・研修があったり、会議の中で対応に困っている子どもがいまい確認している。 ・事例検討会を行い不適切な対応についても検討している。 ・虐待を防止するための研修機会を確保し研修を通して適切な対応を学べている ・会議で毎回周知されていて、対応にもつながっている。 ・研修会は年に複数回行っている。自分たちの関りを顧みる機会にもあるため、ケースを通して考える機会も大事にしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもへの対応が適切であったのかは日々意識して関わる必要がある。 ・「気づき」を促す働きかけをすることが必要。 |
| 53 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。 | 21 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・きちんと話し合った上で保護者に説明し同意を得ている。 ・保護者と話し合う機会を持つ。 ・支援計画に記載し、会議で見直している。 ・身体拘束にならないように代替のものを探していること。 ・毎月振り返りを行っている。 ・身体拘束をする理由も、会議で周知されている。 ・身体拘束について研修を受けている。 ・研修などで周知し、支援計画に記載されている。 ・身体拘束がどの様なものに該当するか学習した上で拘束しないで済む方法を考えるが安全確保のためにやむを得ず拘束が必要であることを保護者に説明し同意のもと実施するようにしている。 | ・現状、身体拘束の事例がないため説明する機会がない。 | |